

ガバナー月信 Governor's Monthly Communication

VOL.
11

2024.5.1

Rotary International District 2690 [2023-24]

2023-24年度
国際ロータリー会長
ゴードン R. マッキナリー

国際ロータリー第2690地区(鳥取・島根・岡山)
2023-24年度地区ガバナー
石倉 貞昭

Contents

青少年奉仕月間によせて	2
クラブ会長エレクト研修セミナー (PETS) 報告	3
第7グループIM開催報告	4
第3・第4・第5グループIM開催報告	5
平田ロータリークラブ創立50周年を迎えて	6
岡山ロータリークラブ創立90周年記念式典・祝賀会 報告	7
2023-24年度ロータリー財団グローバル補助金奨学生 報告書	8
国際ロータリー 青少年交換プログラム中四国3地区合同 オリエンテーション開催報告	9
ロータリー米山記念奨学生 歓送会 開催	10
第5回 諮問委員会	11
地区だより 会員数報告	12

Rotary
第2690地区



世界に希望を生み出そう



葛飾北斎「鐘馗図」島根県立美術館蔵

青少年奉仕月間によせて

地区ガバナー

石倉 貞昭 Ishikura Sadaaki



○四大奉仕から五大奉仕へ

私たちがロータリークラブに入会した頃は、ロータリーは四大奉仕でした。つまり、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕で、青少年奉仕はありませんでした。しかし、青少年奉仕に関する活動が起きたのは意外に早く、1916年に始まります。

ここで、「青少年奉仕」の経緯を簡単に振り返って見ます。

- 1916年 ロータリー連合会が青少年活動委員会を設立
- 1927年 四大奉仕部門を承認
- 1974年 青少年交換プログラム始まる
- 1996年「青少年活動月間」を「新世代のための月間」と改称
- 2010年「新世代奉仕」が加わり、五大奉仕となる
- 2013年「新世代奉仕」を「青少年奉仕」と改称

○青少年奉仕の基本方針

国際ロータリーの第五奉仕部門である青少年奉仕は、ロータリーが若い世代を重視していることを表しています。それは、青少年が将来出現する課題を克服できるように、私たちがロータリアンとして、青少年への奉仕、青少年の将来に対する奉仕、さらに人類全体への奉仕を通じてさまざまなツールを提供しようと努力することにあります。

ひとつの奉仕部門において、青少年に対するプログラムやプロジェクトを組み合わせることで、クラブや地区はより強いアプローチで、この価値ある活動に関与することができます。

○青少年のための奉仕プログラム

1. インターアクト

12歳から18歳迄の青少年のための国際ロータリーの奉仕クラブです。支援や指導を与えるロータリークラブが提唱し、1つまたは複数の学校から結成されます。最初のインターアクトクラブは、

1962年米国フロリダ州メルボルン高校で設立されました。

2. ローターアクト

18歳から30歳位迄の青年男女のためのロータリーが提唱する奉仕クラブです。通常、地域社会または大学を基盤としており、地元ロータリークラブが提唱しています。1968年米国ノースカロライナ大学シャーロット校に初のローターアクトクラブが認定されました。

3. ロータリー青少年指導者養成プログラム (RYLA)

14歳から30歳の若者が集まり、リーダーシップ、スキル、人格を養いながら、ロータリーについて学ぶ集中研修プログラムです。RYLAはセミナーやキャンプ、ワークショップなどの形式が多く、通常期間は3～10日間で、ロータリアンによる主導のもと、クラブ、地区、他地区合同のいずれかが行なわれます。

4. ロータリー青少年交換

5. ロータリー平和フェローシップ

6. グローバル補助金奨学生

7. 職業研修チーム (メンバーまたはリーダー)

8. 地区補助金奨学生

9. 青少年奉仕交換

以上多くの青少年奉仕のプログラムが用意されています。ぜひ、自分のクラブと地域のニーズに合った青少年奉仕をご検討ください。

【RYLAセミナー参加のお願い】

第2690地区のRYLAセミナーを6月1日(土)松江駅前の松江テルサにおいて開催いたします。

各クラブ今年度・次年度の青少年奉仕担当委員長ならびに委員の皆様にも是非ご参加頂きたいと存じます。よろしくお願いたします。

クラブ会長エレクト研修セミナー (PETS) 報告

次期地区副代表幹事

黒瀬 仁志 Kurose Hitoshi



去る2024年3月2日～3日 ANAクラウンプラザホテル岡山にて、榊原敬地区ガバナーエレクト主催の「PETS」会長エレクト研修セミナーを開催させて頂きました。

2024-25年度ステファニーA.アーチックRI会長のテーマ「ロータリーのマジック」、2024-25年度第2690地区のスローガン「未来への架け橋をつくろう」を実現するために学ぶべき事としてプログラムが組まれました。

特に重点を置く課題はエンドポリオと会員増強でした。

PETSはクラブの会長を務められる方が必ず事前に受講しないとイケない重要な研修です。内容の濃い2日間の研修でした。

今回の参加者は、石倉貞昭地区ガバナーをはじめとするご来賓13名、各11グループを担当頂く次期ガバナー補佐11名、第2690地区会長予定者総勢65名、西川智晴次期地区代表幹事以下 次期地区幹事団16名、ホストクラブ会長 幹事 ホストクラブ会長エレクト 幹事 ソングリーダー5名、オブザーバー1名、総勢106名が集まり、次期地区の有意義な運営のために、2日間熱心に研修に取り組んで頂きました。

【研修プログラム】〈1日目〉は

セッション1

地区ガバナーエレクトによる「基調講演」

セッション2

次期地区ラーニングファシリテーター 佐藤芳郎会員による講演「会長エレクトとして今日やるべきこと」

セッション3

東京イマジジジョイナスRC創立会長 富倉 進様による講演「全ては子どもたちの笑顔のために」

〈2日目〉は

セッション4

ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 庄司尚史様の講演は、都合により次期地区ラーニングファシリテーター 佐藤芳郎会員による講演「ロータリーの公共イメージについて」

セッション5

グループディスカッション テーマは「地域の課題と望まれる奉仕活動について」

それぞれのグループのカウンセラーをパストガバナーにお務めいただき、リーダー、副リーダーを次期ガバナー補佐の皆様にご担当頂きました。

休憩の後、各グループの副リーダーから報告を頂きました。

最後に地区補助金申請について次期補助金小委員会小幡篤志委員長よりご説明を頂きました。

次年度のそれぞれのクラブが素晴らしい成果を残されます事を幹事団一同祈念しております。



第7グループIM開催報告

第7グループIM実行委員長

片山 彰造

Katayama Shozo

(児島東RC)



国際ロータリー第2690地区第7グループインターシ
ティミーティングを令和6年2月25日(日)せとうち
児島ホテルにて249名の登録をいただいて開催いた
しました。当クラブの会員数は、11名です。1年前より
毎例会時に協議や報告を重ね、総員結束して当日を迎
えました。夜中、降り続いた雨も受付開始時間の正午
には上がり、穏やかな日差しの中で開会することがで
きました。石倉貞昭ガバナーをはじめとするご来賓の
皆さま、そして、ご参加いただきましたすべての皆さ
まのおかげと心から感謝しています。

私たちは、大会テーマを“地域に希望を生み出そ
う”と決め活動地域である児島地区の歴史や文化を学
びこれからの未来に希望を生み出すヒントを探りたい
と思いました。第7グループは、倉敷市内の倉敷
地区、水島地区、児島地区の8クラブで構成されてい
ます。倉敷・水島地区の6クラブのメンバーの方から
「“児島”の事は、良く分からない」と言われることが
あります。このような漠然とした内容を、どなたに講
演いただくか、思案に暮れました。郷土史の専門家と
言えば、以前卓話で「下津井城のすべて」をお話しい
ただいた岡山学院大学の尾崎聡教授が、思い浮かびま
した。また、野崎家塩業博物館の事務局長との雑談の
中で「塩の未来」を熱っぽく語られたことを思い出
し、ナイカイ塩業(株)の野崎泰彦社長にご依頼すること

ができました。

特別講演の1部として「児島とは何か?～児島の古
代・中世・近世・近現代と日本遺産構成文化財～」と
題して尾崎教授に、独特の文化を生み出してきた児島
の地形的な特徴や産業の変遷を熱っぽく語ってもらい
ました。地元で生まれ育った私も、知らなかったこと
が多く興味深い講演でした。続いて2部は「塩業一
筋」と題して野崎社長が、創業者 野崎武左衛門氏の
遺訓を守り社業である塩業の成長と文化活動を継続し
てこられた社史をお話しいただき、大きな感銘を受け
ました。本業を貫き通し、文化活動で社会に恩返しを
する。まさにロータリーの職業奉仕そのものと感じま
した。

懇親会を盛り上げるアトラクションは、岸本寿男さ
んの“尺八”と松本加世子さんの“ピアノ”ライブを
お願いしました。お二人の演奏は、参加者の心を鷲掴
みし、会場全体がひとつになった感覚になりました。

講演いただきました野崎社長、尾崎教授、演奏してい
ただいた岸本さん、松本さん、進行をお手伝いいた
だいたアナウンサーの渡壁さん、皆さんに本当に感謝で
す。ありがとうございました。

役割分担を綿密に打合せ、当日を迎えました。しか
し、メンバーの1人が家族の入院で突然の欠席になり
ましたが、残りの10人が日頃の阿吽の呼吸で乗り切る
ことができました。当クラブのメンバーは11人です
が、例会はほぼ全員出席のため情報共有が、十分に
できていたことが大きな失敗もなくIMという大きな事
業をやり遂げることができたと思います。クラブのメン
バーと事務局員に感謝・感謝です。みんなで乾杯した
打上のビールの味は、最高でした。



第3・第4・第5グループIM開催報告

第5グループIM実行委員長

井上 智道

Inoue Tomomichi

(江津RC)



国際ロータリー第2690地区 第3、第4、第5グループ合同インターシティミーティングを2024年3月10日(日) 式典並びに講演会を江津市総合市民センターで、懇親会は場所を江津駅前に移し、江津ひと・まちプラザ・パレットごうつに於いて、487名の登録を頂き開催いたしました。

ご来賓に、石倉貞昭地区ガバナー・松本祐二パストガバナー・古瀬俱之パストガバナー・幡宏明地区代表幹事をお迎えいたしました。

ロータリークラブは、会員一人一人が『自己の責任と判断において五大奉仕をしよう』という考えがあると思います。そこで、私達に今、何ができるのかを改めて考えることを目的とし、テーマを、『I Serve に学ぶ「国際奉仕」～輝く瞳のその先にロータリーが繋ぐ未来～』とさせて頂きました。

第1部の講演者 原田義之様には、『輝く瞳に会いに行こう～北タイ アカ族の子供に水&衛生と識字向上支援～』と題した講演をして頂きました。

識字向上支援は極貧の生活環境からの脱出、それにより可能となる就労、国籍取得と、将来に希望もみつけることとなります。また、衛生的な水が近くに備わる事は、女性たちにとって貴重な時間が増えただけでなく、何年も続いた部族間同志の紛争をも解決に導きました。原田様のお話は奉仕の美しさまで感じ、聴いていて心が震える思いをいたしました。

17年にわたり、著書や日本全国を回り講演をされ、まさに人生をかけての国際奉仕は、ロータリーで学んだ『I Serve (自ら奉仕する)』の強い精神を感じる熱いお話しでした。

第2部は、ホシザキ株式会社 取締役会長坂本精志様に『米山奨学会への思い』と題した講演をして頂きました。

2016年、米山記念奨学会に150億円相当の株を寄付。昨年は米山記念財団に1億円。さらには、米山功労賞、およびポールハリスフェローに対し33年連続の寄付活動と、国内外を問わず、多額の寄付をされ給付型の奨学金制度を創設されています。会社の発展とともに、社会への支援は先代のお父様のお考えを大切に引き継ぎながらおこなわれています。

社会へお返しをする。それは、よいことの為に、奉仕の為に、人を育てる為に、とのことですが、日本の少子高齢化と、借金大国で国がますます貧しくなる事を思い、日本をよく知る人、支援してくれる人を育てるため、国際的に日本の存在感を保つため、寄付活動への強い思いを教えて頂きました。

続いて、懇親会は251名のご参加をいただきパレットごうつにて開催いたしました。

地区ラーニングファシリテーターの古瀬俱之パストガバナーの挨拶をいただき、松本祐二パストガバナーの乾杯の発声で懇親会が始まりました。

懇親会もIMの重大な役割と位置づけられています。

主催者としてのおもてなしが、参加して頂いた方々に十分に伝わるよう工夫をこらしたつもりです。

料理は江津ならではの食材をなるべく温かくして食べて頂けるように、また、アトラクションは地元の神楽こども会による恵比寿と、当会員である山根会員が指導するフラダンス教室の生徒のみなさまに披露をして頂きました。

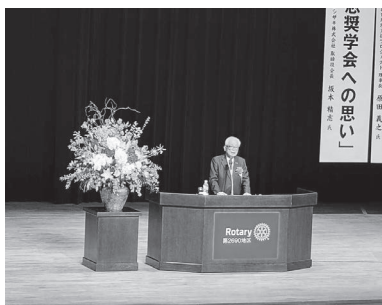
最後は、ロータリー恒例の「手に手つないで」を全員で歌い、閉会の挨拶を幡宏明地区代表幹事にしていたいただき無事に終了することができました。

楽しい雰囲気の中で開催ができたのではと思っています。

極寒の中での懇親会の開催はご参加された皆様は大変にご負担をおかけしたと思います。衷心よりお詫び申し上げます。

また、ご協力を賜りました関係各位に心から感謝を申し上げますと共にロータリーの友情に感謝しIMの報告とさせて頂きます。

尚、ご登録いただいた会員の皆様には、改めて講演内容をご覧いただけるようにレポートを作成いたします。



創立50周年を迎えて

創立50周年実行委員長

飯塚 大幸 Iizuka Daiko

(平田RC)



平田ロータリークラブは1974年（昭和49年）出雲南ロータリークラブをスポンサーとして、会員23名で発足いたしました。50周年記念式典は2024（令和6年）2月23日、元ロータリアンの飯塚俊之出雲市長始め各界代表の来賓の皆様、国際ロータリー第2690地区石倉貞昭ガバナー始め多くのロータリアンの皆様にご臨席をいただき、盛大に開催されましたこと、この場を借りて改めて関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。

50周年のテーマ「ふるさとを未来につなぐ」には、大人も子どももふるさとを誇りに思い、この地に帰ってきてほしい、末永く大切にしてほしいという願いを込めました。特に「SDGs目標14. 海の豊かさを守ろう」という視点から、下記の記念事業および継続的な活動を行いました。

1) 環境問題を学ぶ取り組みとして、海に面する北浜小学校、平田で最大の平田小学校の生徒さんと一緒に、総勢192名で「ふるさとを未来につなぐプロジェクト」と称するワークショップを行いました。落語家の鈴ヶ舎馬るこ師匠による落語「プラスチックごみだらけの竜宮城」で楽しく学び、環境科学者の井出迫義和先生からは、ホワイトボードや小道具を使用しながら対話形式で子どもたちと温暖化、漂着ゴミ、海洋プラスチックゴミ、マイクロプラスチックなど変わりゆく海洋問題を教わりました。その後、学んだことを確認しながら、子どもたち、講師先生方、ロータリアン全員で、クラブ継続の事業でもある海岸清掃でさわやかな汗をかきました。当日の弁当には地元産や低利用の「ブルーシーフードの海鮮チラシ寿司」とこだわりました。

2) ロータリアンの取り組みとして、クラブ例会の食事にはほぼ毎回ブルーシーフード・メニューを取り入れました。ブルーシーフードとは、乱獲や海洋汚染などで食卓から姿を消す魚、絶滅や枯渇が心配されるレッドやイエロー種が増える中、そうではない身

近な魚、資源量が豊かな魚、利用されずに廃棄される魚を積極的に食べるよう呼びかけ、水産業全体を守ろうとする世界的な取り組みです。海に関わりの深い会員が自ら魚を採り、自らが調理をするなど、グローバル視点をクラブのローカルから実践するよい習慣となりました。

3) 記念式典における講演会では(株)ウエカツ水産代表取締役の上田勝彦氏をお招きし、水産現場の立場から「変わりゆく海と魚 平田に住む私たちには何が出来るかを考える」と題してお話をいただきました。氏は出雲市のご出身、学生時代から漁師として活動し、水産庁官僚を経て現在は東京海洋大学客員教授としてもご活躍です。日本人の食生活の変化、国土環境の変化、温暖化による海洋環境の変化、将来の日本の食糧事情などに対して自らの経験をもとに警鐘を鳴らすとともに、示唆に富んだ提言をいただきました。

クラブ50周年は、ロータリーの奉仕の心を通して、会員同士、ふるさとを見つめ、世代を超えて地域の絆を深める貴重な機会となりました。日本海、島根半島の山、穴道湖、斐伊川、神話の時代から育まれる美しいふるさと。ふるさとを愛し、ふるさとを未来につなぎたい。ロータリーの奉仕の心を通して世界に希望を生み出して参りたい。

あらためて心に誓うことになりました。



岡山ロータリークラブ創立90周年記念式典・祝賀会

～90年の歴史と伝統を再認識し、
100周年に向けての第一歩とする～

創立90周年実行委員長

井尻 昭夫 Ijiri Akio

(岡山RC)



岡山RC創立90周年記念式典・祝賀会を3月6日（水）ホテルグランヴィア岡山において開催いたしました。来賓として岡山市長大森雅夫様、岡山商工会議所会頭松田久様、国際ロータリー理事佐藤芳郎様、地区ガバナー石倉貞昭様、スポンサークラブ京都RC会長武田隆久様、海外姉妹クラブ第3510地区高雄RC会長陳梧桐様（台湾）、同じく第5170地区サンノゼRC会長エレクトHeather Lerner様（米国）にご臨席いただき、また7名のバストガバナー様、ガバナーエレクト様、第6から第11グループの6名のガバナー補佐様、地区代表幹事様、そして岡山RCがスポンサーを務めさせていただいた岡山県内外の10クラブの会長・幹事様、さらに岡山県内の全てのクラブから会長様をはじめご臨席いただくなど130名ものご来臨を賜り、岡山RC会員とそのパートナーを含めると総勢252名にご参加いただき盛大に開催することが出来ました。

記念式典の前には、岡山市と姉妹都市締結をしている米国サンノゼ市から海外姉妹クラブ サンノゼRCに参加いただけたことで、「岡山市・岡山商工会議所・サンノゼRC・岡山RCによる4者歓談会」を開催し、サンノゼRC会長エレクトHeather Lerner様からはサンノゼ市長から託された岡山市長宛のメッセージボードを大森市長に授与され、その後はサンノゼ市にある後樂園を模した公園「日本友情庭園」のことや、2027年に姉妹都市締結70年になることなどの話題に花を咲かせました。

4者歓談会も終わり、松岡会長の先導によりご登壇いただく7名のご来賓を大きな拍手で会場に迎え入れいよいよ記念式典の開会です。松岡会長による点鐘のかわいた音が緊張感漂う会場に鳴り響き、国歌「君が代」斉唱、中華民国国歌「三民主義」演奏、米国国歌「星条旗」演奏、「奉仕の理想」斉唱をすべてピアノの生演奏で行いました（それぞれの国旗がスクリーンに表示され胸が熱くなったのが昨日のこのようです）。そして80周年以降に逝去された9名の会員（現役会員として逝去された方のみ）の御霊に黙祷を捧げたのち、松岡会長からご来臨の方々への感謝の言葉と、90年という歴史を再認識し今日という日を10年後の100周年を目指す第一歩目にしたいという力強い挨拶がありました。続いてご来賓を代表して大森岡山市長様、佐藤RI理事様、石倉ガバナー様、武田京都RC会長様から身に余るお祝いの言葉を賜りました。続いてスポンサークラブ京都RCへの感謝状、表彰（2014年度以降のバスト会長・幹事、在籍20年以上の永年会員36名、功労者1名）、記念事業発表、創立50周年時に基金を設置した岡山RC国際交流振興基金奨励賞も今年で第40回

となり今回は2名の海外からの留学生へ授賞を行いました。

最後に松島副会長による閉会挨拶で記念式典を滞りなく終了し、緊張感があった開会点鐘とは異なる落ち着いた音色の点鐘で式を閉じ、その後来会者全員で記念撮影をおこないました。

祝賀会では、90年間を振り返るオープニング映像、実行委員長井尻による開宴挨拶、海外姉妹クラブ高雄RC陳梧桐会長挨拶、サンノゼRC Heather Lerner会長エレクト挨拶につづき、岡山商工会議所松田会頭の乾杯により祝宴となり、世界で活躍するヴァイオリニスト福田廉之介氏が代表を務めるThe MOSTの奏でる曲を聴きながら楽しい時間をご来会いただいた方々と過ごすことができました。最後に高雄RCとサンノゼRCに記念品贈呈とバナー交換を行い友情を確かめ、つづいて岩藤会長エレクトの開宴挨拶、そして皆で大きな輪を作り「手に手つないで」を合唱し宴を閉じました。

この度の90周年に関する緒行事はコロナ禍が残る2022年10月より正副実行委員長による実行委員会を立ち上げ企画立案してまいりました。早いうちからの計画を立てたおかげで90周年の本年度内に記念事業を実行し、式典において成果を発表することが出来ました。また記念式典・祝賀会においてはライブ映像とスライドを準備しスクリーンをフルに活用することにより来会者に視覚的にも楽しんでもらえたのではないかと考えています。海外からも大勢参加がありましたので和訳、英訳を事前に準備しスクリーンに映すことにより通訳の時間を省き、間延びのしない設えをしました。また来会者への記念品はSDGsを意識し、アップサイクルの備前焼を用意するなど多岐にわたり入念な準備をしておりました。今回、私どもの90周年の行事に賛同され携わり全面的にご協力いただいた皆さまに心より厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

結びに創立以来90年間私どもの活動を支えていただいた全ての関係者の皆さまに感謝申し上げ、今後も地道に奉仕活動に努めてまいりますことをお約束申し上げ報告とさせていただきます。

〈90周年記念事業は以下の通りです〉

- ・ロータリー財団へ冠名基金として岡山RC創立90周年基金の設立
- ・奉仕活動を行う際に着用するピブスの作製
- ・ファジアーノ岡山 岡山RC創立90周年記念デーの開催
- ・団体へ活動支援金としての寄付（一般社団法人ファジアーノ岡山スポーツクラブ、一般社団法人The MOST、社会福祉法人新天地育児院）



2023-24年度ロータリー財団 グローバル補助金奨学生 報告書

地区グローバル補助金奨学生

長江 愛子



1. 学業面での成果

今学期は「Environment and Population Health」、
「Epidemiology: Principles and Practices」の2つの
授業を履修した。どの授業でも課題が3つあり、1月27日
時点でどの授業の課題も約8割の点数を取ることができた。

Epidemiologyは初めて本格的に学ぶが、元々苦手意識
があったため、特に予習復習を入念に行なった。不明点
は先生にできるだけ聞きにいき、わかりにくい部分は他の
論文やわかりやすくまとめられているサイトなどを利用し、
理解するように努めた。結果、一つ目の課題では40点中39
点と高得点を取ることができた。

Environment and Population Healthでは、環境問
題と健康との関係を学んだ。前から環境問題には興味があ
ったため、とても興味深かった。課題ではタンザニアで
の農薬の使用と健康被害を調査し、3分間のビデオにまと
めた。複雑な問題を3分間で初めて聞く人にもわかるよう
に工夫する点が難しくもあり、やりがいのある作業だった。
授業中、水不足についてディスカッションをした時、自分
を含め先進国出身の学生は水不足を感じたことがないと言
っている一方で、途上国出身の学生の地元では定期的に断
水が行われ、水不足を密に感じると話していたのが印象的
だった。クラスが小さな世界ようになっていて、自分で
は想像しきれない範囲までディスカッションが進むので、と
ても刺激的だった。

2. 受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウ ンセラーとの交流

受入地区であるGriffith GC Rotary Clubは隔週でミー
ティングを行っており、引き続き毎回出席している。12
月には年内最後の集まりとして、大学近くのカフェで朝食
会を行なった。また、奉仕活動の一環として、Griffith大
学生初のPlanetary Health Campus Ambassadorに
選ばれ、1年間活動を行うこととなった。1年を通して、
大学やコミュニティ内でPlanetary Healthに貢献するた
めのイベントの運営や、世界中からのメンバーと協働を行
なっていく。自分の関心のある母子栄養の根本にある地球
の健康を向上できるよう、活動していきたいと思う。

3. 直面した課題、問題点等

英語で授業を聞いて課題を行うことにはあまりハードルを

感じなくなってきたものの、質問や説明をするときにう
まく話せないことがあり、言語の壁を感じている。忠実に
日本語を英訳しようとしているときにつまることが多いので、
できるだけ英語で考えて発言するなどの工夫をしていき
たい。また、結論を先に言わず、内容がうまく伝わらないとき
もあるなので、はっきりと結論から言うように心がけたい。

4. 今後の課題、目標

来学期には卒業論文のテーマをある程度決めておく必要
がある。授業を通して、母子栄養のプログラムは成功した
が、結局その地域の空気汚染のせいで母子栄養は改善され
なかったという事例を知った。母子栄養を含め、人々の健康を
向上するためには、環境や地球の健康が根本になければなら
ないことを学んだ。そのため、Planetary Health と母
子栄養のどちらも関わる内容で卒業論文を書きたいと思っ
ている。先生にも相談しながら、テーマを絞っていきたい。



ビーチがより近い家に引っ越しを
した。アルゼンチン人のカップル
とシェアして、一緒に料理を
作るなど楽しい時間を過ごしてい
る。住環境が良くなって、自然と
早起きをするようになった。



友人とディナーに行った際の写真。

国際ロータリー 青少年交換プログラム 中四国3地区合同オリエンテーション開催報告

青少年交換委員会委員長

中村 寿男 Nakamura Hisao

(松江しんじ湖RC)



去る、2月3日（土）から4日（日）の2日間にわたり中国四国3地区合同のオリエンテーションを開催いたしました。中国四国3地区とは第2670地区（四国4県）、第2710地区（広島・山口）、当地区第2690地区（岡山・鳥取・島根）のことです。地区役員28名、2023-24年度受入交換学生13名、2024-25年度派遣候補生7名、ROTEX2名、講師先生2名の総勢52名の参加で、会場は全地区から集まりやすい場所として、児島にあります「倉敷シーサイドホテル」にて開催いたしました。

この中四国3地区合同オリエンテーションはコロナの影響で、約4年間開催できませんでした。そのため、この度の開催には地区役員の中でも経験者が少なく、委員長の私自身も未経験で、諸先輩のご指導を受けながら、その中でもコロナ禍後の状況を考慮して、企画運営をいたしました。

1日目は開会式の後、2023-24年度受入交換学生と2024-25年度派遣候補生の合同のオリエンテーションを行いました。講師には岡山学芸館のJames Nicho（ジェームス・ニコル；カナダ人）氏をお迎えして、英語・日本語を交えてのゲーム感覚的なアクションが加わった研修をいたしました。受入交換学生にとっては講師がカナダ人であり、外国人からの視点での日本の魅力の紹介やアクションを含めた日本と自国との礼儀や行動の違い等をうなずきながら感じ取っていただき、派遣候補生にとってはこれから行く異国の習慣が如何に日本と違うか、そして、生きた英語の雰囲気を感じてもらえたと思います。このオリエンテーションは今までにない試みでしたが、地区役員からも好評でした。

夕食後は恒例のエンターテイメントショーを開催いたしました。これは受入交換学生と派遣候補生全員が何か一芸を披露するという楽しい会です。半世紀前ROTEXであった私も、外国の地で日本人としてのアピールをさせられる機会を多々経験いたしました。派遣候補生にとっては特に良い機会です。楽しく披露できれば自信を持てるし、披露できなかつたり、自分が納得できないパフォーマンスであったなら、この経験を活かして渡航前までに磨きをかけるチャンスとなります。また、受入交換学生にとっては自国のアピールが出来るチャンスです。これには私たち地区役員が逆にそれぞれの受入交換学生の国の様子を感じ取れるとても貴重な時間となります

した。

しかしながら、中にはちょっと引込み思案の方も数名いらっしゃり、第2670地区役員の方々がちょうどこの時期の日本の独特な慣習である「節分」を紹介しながら、自ら鬼に扮し、恥ずかしがっているメンバーに豆をまかせて、全員なにかの一芸を披露したという「落ち」にして、まとめられたのは流石経験者として感心させていただきました。

その後、地区役員のみで、2次会を催しましたが、これも貴重な意見交換が出来、あっという間に深夜を迎えてしまいました。

結局、日々青少年交換の環境がどんどん変わっていく中で、この意見交換の機会がこの時だけではもったいないという話になり、中四国3地区青少年交換委員長を中心に、今後このような意見交換の場を別に数回設営することを決定いたしました。

2日目は受入交換学生と派遣候補生と別々にオリエンテーションを開催いたしました。受入交換学生はROTEXと一部の地区役員の引率の下で、倉敷周辺の観光視察を行いました。おかげで3地区の受入交換学生の心が一つになる楽しい旅行となりました。

派遣候補生は鬼丸昌也氏を講師に迎え、「ロータリークラブとは何か」から始まり、青少年交換学生の意義、自覚をしっかりと持つまでの研修をしました。見守っていた地区役員も、受入交換学生が時間を追って、意識が変わっていくのを見て、改めて、ベテランの鬼丸先生の教育力に感心させられました。

そして、昼過ぎに、中四国3地区合同のオリエンテーションの閉会式を行いました。この2日間で参加者全員が一体感を持てるようになり、閉会式では司会の無茶ぶりから英語で閉会の挨拶する地区役員も出てきて、大変楽しい雰囲気の中で、このオリエンテーションを終了させていただきました。

わずか2日間のオリエンテーションでしたが、学生たちの目は確実に変わり、改めてこのオリエンテーションの大切さを感じさせていただきました。

また、このオリエンテーションにご協力をいただきました各地区のガバナーをはじめ、関係役員様に心から感謝をいたしまして、このオリエンテーションの報告を終わらせて頂きます。

ロータリー米山記念奨学生 歓送会 開催

2月18日(日)松江のホテル一畑にて、3月に奨学期間の終了する奨学生(16名)を対象に歓送会が行われ、奨学生には修了証を、カウンセラーの皆さまには感謝状が贈呈されました。会は石倉ガバナーの挨拶に続き、米山記念奨学会評議員・岩崎陽一様より祝辞を頂き、贈呈式に移り、後半は奨学生とカウンセラーの皆さまの思い出のスピーチがあり、終わりに榊原ガバナーエレクトより送る言葉を頂き、閉会となりました。

当日で参加頂いたカウンセラーを代表して3名の方にご寄稿頂きました。



「米山記念奨学生のカウンセラーを終えて」

藤本 隆志

Fujimoto Takashi

(岡山後楽園RC)



当クラブでは、2023年4月より9月までの6か月の条件で中国出身の米山記念奨学生を受け入れましたが、博士号の取得時期の都合もあり、6か月の延長を希望されました。延長にはクラブ支援奨学金制度がありますが、この制度は、毎月の奨学金の半分以上をクラブが負担するとの条件があります。そのため、理事会で審議して推薦を

決定、奨学会が審査のうえ6か月の延長が決定しました。この延長を受けて、米山記念奨学生は勉学に励み博士号を取得、2024年3月に卒業されました。

今回のクラブ支援奨学金制度は、クラブに思わぬ負担を伴いましたが、ご本人のクラブに対する意識に変化があったと思われます。例会ははじめ各種イベントに積極的に参加され、また、海外の友好クラブとの3回の交流イベントに通訳として協力してくださったことは当クラブに対しての感謝の気持ちかも知れません。

今後も米山記念奨学金が、奨学生の勉学や友好に役立つことはもちろんクラブ会員の米山記念奨学金制度に対する理解向上につながることを願います。

松原 雄平

Matsubara Yuhei

(鳥取北RC)



初回の面談時、にこやかな表情で流暢に自己紹介した郭瑠儀さんの日本語力に驚かされたが、「それ(会話力)はどこから?」と聞いたところ、鳥取大学の大学院生として、兵庫県豊岡市内の2軒の御宅に1ヶ月以上、民泊して地域調査を行ってきたと聞いてさらに驚かされた。

ご自宅に長期間、留学生を宿泊させていただいた地域の方の優しさや国際性にも感謝であるが、郭さんの国際交流能力がそれを実現させたのだらうと思われた。研究では苦労もされたということであるが、例会や交流会等にも積極的に参加され、笑顔を絶やさない彼女は9月から京都の大学に進まれるとのことで、さらなる研究の進展が期待される。例会で彼女の笑顔が見えなくなることには一抹の寂しさを感じるが、日本での学究生活の中で、実り多い研究調査を挙げられ、日中間で活躍する国際人として成長されることを期待するものである。

山口 章

Yamaguchi Akira

(松江南RC)



3月第一例会卓話に修士論文発表を傅子瑞君にして貰いました。

昨年4月に岡山で初めて会ってから一年。やや拙い日本語でしたが、人柄の良さが滲み出る笑顔が印象的で、

話を聞くと中国への思いと頭の良さを感じられた初対面でした。

例会には積極的に参加してくれ、地域の祭りにも笑顔で関わってくれました。例会スピーチではフィギュアの話が殆どで、それはそれで面白いのですが、勉強の方はどうなっているのか、と些か心配をしていました。

事前に緒言を送ってもらい読みましたが、高度な論文に仕上がっていることが容易に想像できる立派な緒言でした。勿論卓話は素晴らしく、会員一同この一年の彼の成長を直に感じる事が出来ました。

2023-24年度 国際ロータリー第2690地区
第5回 諮問委員会

日時：2024年3月2日(土) 11:00~12:30
会場：ANAクラウンプラザホテル岡山/ 曲水
司会：地区副代表幹事 尾添 憲男

1. 開会
2. 配布資料の確認
3. 出席者紹介
4. 地区ガバナー挨拶
5. 報告事項
 - ①Intercity Meeting (IM) の開催状況について 【資料①】
 - ②ロータリー米山記念奨学生との交流事業について 【資料②】
 - ③地区行事予定について 【資料③】

- ④その他
6. 地区ロータリー財団事務所より
7. 榊原敬ガバナーエレクト事務所より
8. 次回開催日の確認
2024年6月2日(日) 11:00~12:30 (受付10:30~)
会場：ホテル一畑
9. 閉会

地区ガバナー 石倉 貞昭
地区ガバナー 石倉 貞昭

2024年 3月 地区だより

新会員紹介



國本 智之 智頭RC 小谷 和宏 倉吉RC 平田 健 鳥取中央RC 長谷川幹也 米子東RC 伊藤 祐介 米子東RC 高橋 宏之 米子東RC 春名 勝之 松江南RC 伊原 浩一 隠岐西郷RC 中原 勇真 総社吉備路RC



中塚 裕之 玉島RC 船越 淳二 倉敷RC 岡 佳弘 倉敷RC 篠原 英治 倉敷RC 横野 崇司 倉敷RC 山根 喬 倉敷南RC
白井 道典 備前RC 永山 理美 岡山後楽園RC 木村 憲二 岡山南RC 岡 憲史 岡山西RC 藤原 弘充 岡山西南RC 山田 健司 岡山西南RC

【VOL.11 表紙】 葛飾北斎 ^{しよきす}《鍾馗圖》

寛政五~六年 (1793~94)、絹本着色、島根県立美術館蔵 (永田コレクション)

「鍾馗」とは病床の玄宗皇帝 (中国唐代) の夢に現れ、病をもたらした鬼を退治したとの伝説から、古来魔除けの神として信仰されました。江戸時代には男児の無病息災を願い、5月の端午の節句でその勇壮な姿を描いた掛軸や織が飾られ、特に朱色で描かれた図には瘡癩 (天然痘) 除けの効験があると信じられました。この作品は、北斎がまだ「春朗」と号していた34、35歳頃の肉筆画で、「春朗」の直筆サインを有する本画 (完成品) としては現存唯一の貴重な作品です。



ロータリー財団への寄付

- ポール・ハリス・フェロー (年次基金への寄付)
- 庄司 尚史⑦ (境港RC) 中津尾 健② (米子RC)
- 松浦 常明③ (米子南RC) 今井 直樹④ (松江RC)
- 錦織 正③ (出雲南RC) 今井 久晴② (浜田RC)
- 西村 誠① (新見RC)

クラブポリオプラス

浜田RC 380.79ドル
笠岡東RC 1005.70ドル (第6グループIMポリオ募金協力8クラブ)

クラブ年次基金

浜田RC 761.59ドル (ミリオンダラーミール)
笠岡RC 335.68ドル (ミリオンダラーミール)
玉野RC 1655.63ドル
岡山西南RC 11.39ドル (2024年1月分新会員寄付他)
岡山西南RC 22.00ドル (2024年3月分新会員寄付他)

法人寄付・年次基金

松江RC 中国電力(株)島根支社

法人寄付・ポリオプラス

松江RC 中国電力(株)島根支社

米山奨学会への寄付

- 米山功労者
- 小原 隆三③ (鳥取RC) 岩崎 陽一③③ (鳥取西RC)
- 佐田山有史② (米子東RC) 塩谷 眞司① (米子東RC)
- 松浦 常明⑤ (米子南RC) 秦 正⑧ (出雲南RC)
- 林 不動⑥ (出雲南RC) 松本 毅② (出雲南RC)
- 持田 隆治① (出雲南RC) 森山 育子① (出雲南RC)
- 錦織 正② (出雲南RC) 小川 哲治④ (出雲南RC)
- 須山 泰則⑦ (出雲南RC) 倉本 給都① (浜田RC)

クラブ普通寄付

倉吉RC 102,500円 岡山備南RC 52,500円
松江しんじ湖RC 115,000円

クラブ特別寄付

松江東RC 46,000円 (米山ランチ)
浜田RC 115,500円 (米山ランチ)
岡山備南RC 100,000円 (米山BOX)

法人特別寄付

松江RC 中国電力(株)島根支社
松江しんじ湖RC (株)産機
松江しんじ湖RC (有)高浜印刷
松江しんじ湖RC 山陰中央テレビジョン放送(株)

会員数報告 (2024年 3月)

クラブ名	例 会 数	会 員 数				
		7月1日	3月末日	内女性会員	増 減	
第1グループ	智 頭	3	5	6	0	1
	倉 吉	3	38	41	2	3
	倉吉中央	3	17	18	2	1
	倉吉東	3	46	46	5	0
	鳥 取	3	58	54	3	▲ 4
	鳥取中央	2	27	34	1	7
	鳥取北	2	45	44	7	▲ 1
	鳥取西	4	55	54	3	▲ 1
	小計(8)	—	291	297	23	6
第2グループ	境 港	3	43	45	1	2
	米 子	3	68	67	4	▲ 1
	米子中央	3	41	40	2	▲ 1
	米子東	3	102	108	15	6
	米子南	3	68	70	5	2
	小計(5)	—	322	330	27	8
第3グループ	松 江	3	60	61	1	1
	衛星クラブ	2	9	9	5	0
	松江東	3	49	47	4	▲ 2
	松江南	3	65	62	5	▲ 3
	松江しんじ湖	2	45	45	10	0
	隠岐西郷	4	26	26	2	0
	小計(5)	—	254	250	27	▲ 4
第4グループ	平 田	3	37	37	1	0
	出 雲	3	51	55	1	4
	出雲中央	3	47	47	3	0
	出雲南	4	84	83	7	▲ 1
	大 社	3	48	50	5	2
	小計(5)	—	267	272	17	5
第5グループ	江 津	3	40	42	3	2
	浜 田	4	56	55	5	▲ 1
	益 田	4	19	19	2	0
	益田西	3	31	31	2	0
	大 田	3	24	24	3	0
小計(5)	—	170	171	15	1	
第6グループ	井 原	3	37	38	1	1
	笠 岡	4	49	48	3	▲ 1
	笠岡東	5	39	40	1	1
	新 見	3	24	23	3	▲ 1
	総 社	3	14	16	2	2
	総社吉備路	4	29	31	1	2
	高 梁	3	34	35	1	1
	玉 島	4	27	28	5	1
小計(8)	—	253	259	17	6	

クラブ名	例 会 数	会 員 数				
		7月1日	3月末日	内女性会員	増 減	
第7グループ	児 島	2	15	16	0	1
	児島東	3	10	11	0	1
	倉 敷	3	74	75	1	1
	倉敷中央	2	16	18	7	2
	倉敷東	3	29	27	4	▲ 2
	倉敷南	4	57	60	3	3
	倉敷水島	2	17	16	0	▲ 1
	倉敷瀬戸内	3	34	32	1	▲ 2
	小計(8)	—	252	255	16	3
第8グループ	真 庭	2	29	30	1	1
	美 作	4	26	27	2	1
	津 山	5	95	95	5	0
	津山中央	3	11	11	3	0
	津山西	4	32	33	4	1
小計(5)	—	193	196	15	3	
第9グループ	備 前	4	41	45	7	4
	岡 山	3	113	114	5	1
	岡山東	4	96	97	2	1
	岡山北西	4	47	48	3	1
	岡山後楽園	4	48	49	2	1
	小計(5)	—	345	353	19	8
第10グループ	岡山旭川	3	36	37	2	1
	岡山中央	5	24	25	5	1
	岡山北	3	49	50	4	1
	岡山南	4	152	156	20	4
	玉 野	5	25	25	0	0
	小計(5)	—	286	293	31	7
第11グループ	岡山備南	3	20	21	1	1
	岡山城	3	20	21	1	1
	岡山岡南	3	25	25	2	0
	岡山丸の内	3	50	51	4	1
	岡山西	4	66	69	13	3
	岡山西南	4	48	53	7	5
小計(6)	—	229	240	28	11	

地区クラブ内の状況

クラブ数	65 RC
2023年 7月1日会員数	2,862 名
2024年 3月末日会員数	2,916 名
内 女性会員数	235 名
純 増	54 名

